

(2) 東北



東北地域では、景気は回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)。

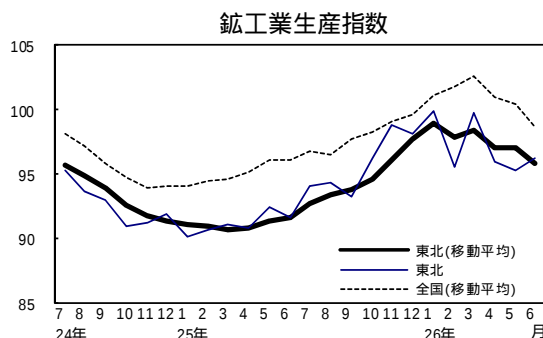
前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年5月)	今回(平成26年8月)	
景況判断	回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる	回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある	↑
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる	↑
住宅建設	大幅に増加	減少	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。

4～6月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン向けにコネクタが好調だったこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置が前期の反動等から減少した。食料品・たばこは、ビールが消費税増税前の駆け込み需要の反動減から回復したことにより増加した。情報通信機械は、パソコンソフトのサポート終了に伴う駆け込み需要の反動及び消費税増税前の駆け込み需要の反動等から減少した。輸送機械は、自動車関連部品が消費税増税前の駆け込み需要の反動等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	16.9	7.2	2.8	▲0.6	1.1	1.7
はん用・生産用・業務用機械	14.7	1.2	▲9.7	▲7.5	▲6.2	▲1.0
食料品・たばこ	10.6	▲0.1	2.8	▲7.6	4.3	13.4
情報通信機械	9.2	▲4.4	▲16.5	▲10.9	▲10.1	1.5
輸送機械	8.3	4.1	▲12.8	▲12.2	▲1.1	▲0.4
鉱工業	100.0	0.6	▲2.5	▲3.8	▲0.7	1.0

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

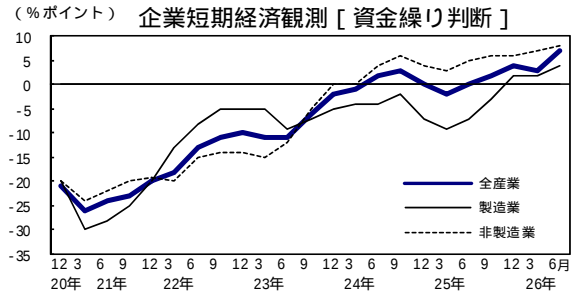
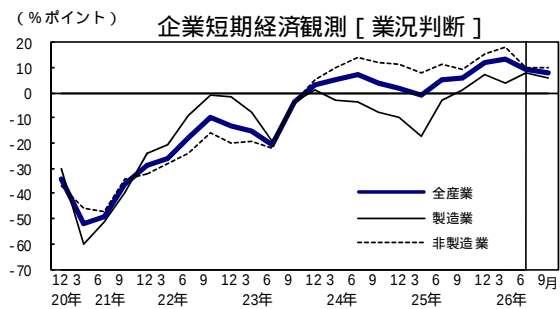
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。

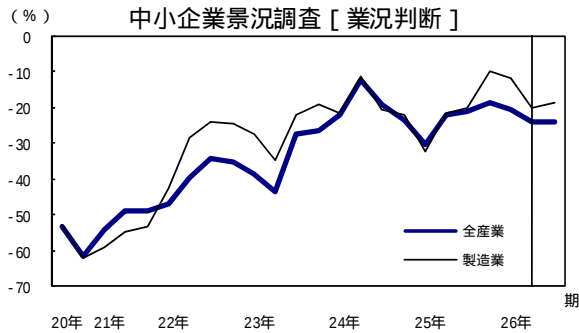
(2) 業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。26 年 9 月は予測。

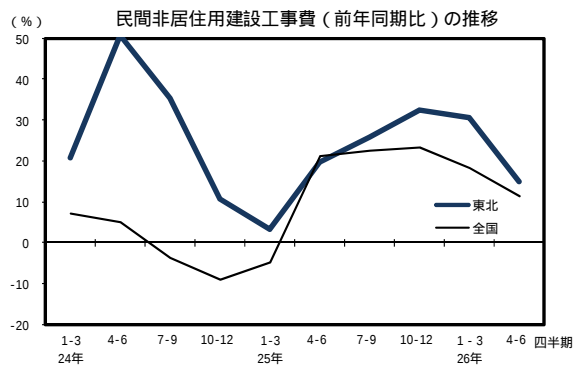
(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。26 年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7 月) [企業動向関連 (現状)]
「燃料、肥料、農業資材などの価格高騰が続き、経営が圧迫されている (農林水産業) 」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (6 月調査)]		
(前年度比、 %)		
	25 年度実績	26 年度計画
全 産 業	▲8.2 (▲1.2)	3.7 (7.6)
製 造 業	▲18.3 (▲5.4)	18.8 (11.7)
非 製 造 業	3.8 (3.1)	▲10.6 (2.9)

(備考) () は前回 (3 月) 調査比修正率。

2. 需要の動向

- (1) 個人消費は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

4月は前月比11.9%減、5月は同2.6%増、6月は同0.2%減となった。

大型小売店販売額

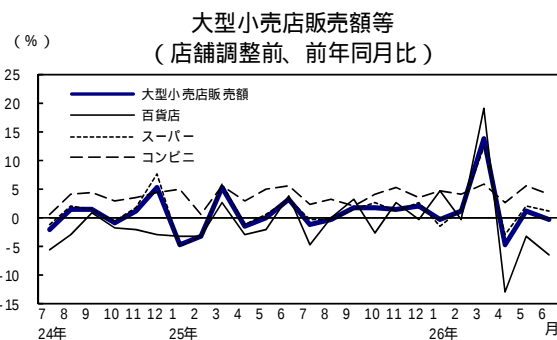
百貨店は、4月は、春物衣料や呉服、寝具などが不振だったこと等から前年を下回った。5月は、飲食料品は物産展や惣菜などが好調だったものの、衣料品の夏物衣料などが不振だったこと等から前年を下回った。6月は、惣菜などが好調だったものの、衣料品の夏物衣料などが不振だったことから前年を下回った。

スーパーは、主力の飲食料品が、精肉や野菜、惣菜などが好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（7月）[家計動向関連（現状）]

東北地域の家計動向関連DIは、49.8となり前月より6.3ポイント上昇した。

「夏のセールに入り、前半は苦戦したものの後半は気温の上昇に伴い衣料品の動きが良くなってきている。高額商品はブランド商品を中心にほぼ前年並みに回復してきているが、高級時計については、消費税増税前の動きまでには戻っていない（百貨店）」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

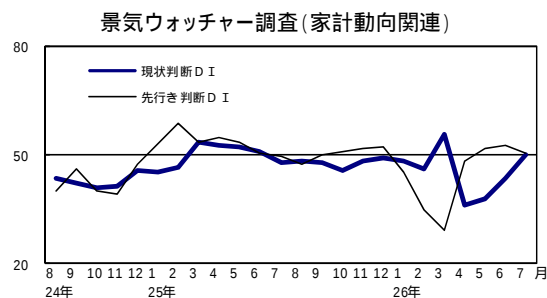
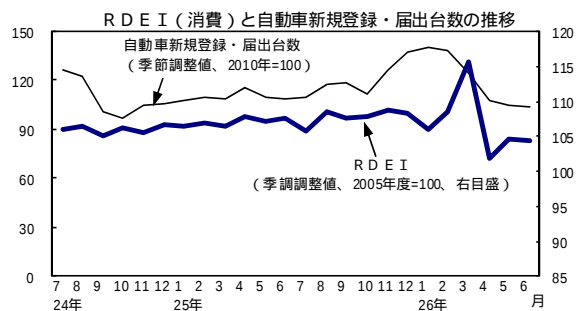


	26年4-6月	26年4月	5月	6月
RDEI（消費*1）	▲5.9	▲11.9	2.6	▲0.2
大型小売店(*2)	▲1.2	▲4.7	1.2	▲0.2
百貨店(*2)	▲7.6	▲13.0	▲3.2	▲6.4
スーパー(*2)	0.1	▲2.9	2.0	1.1
コンビニ(*2)	4.1	2.7	5.5	4.0
乗用車(*3)	▲4.9	▲6.7	▲5.2	▲2.9
(季節調整値)(*3)	▲21.8	▲13.6	▲2.9	▲1.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

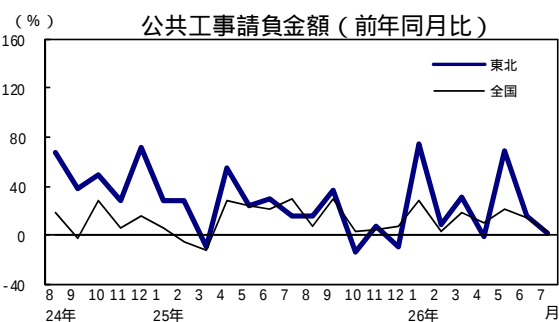
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



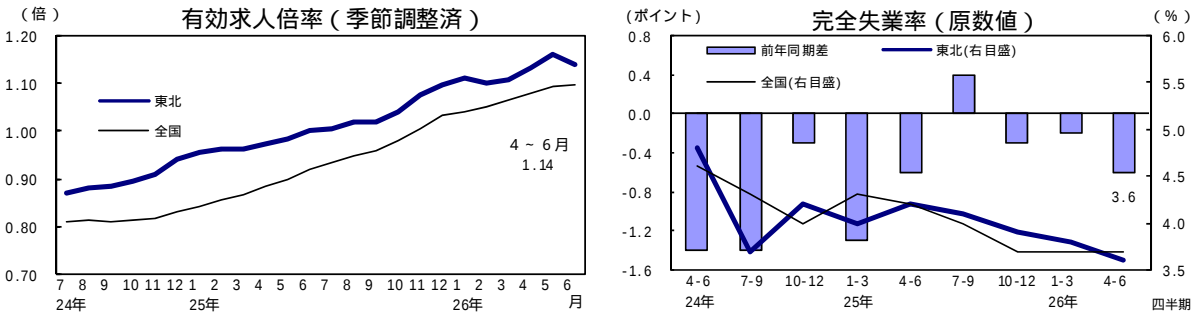
- (2) 住宅建設は減少している。
持家が前年を下回ったことから減少している。

- (3) 公共投資は26年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は、着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



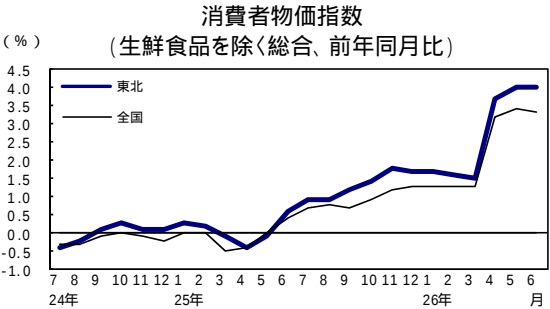
（備考）24年1 - 3月期から24年7 - 9月期までの前年同期差は、補充推計値を用いて計算した参考値である。

景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]
「流通関連企業の求人件数が増えている。新規出店のスーパーマーケットが複数件あり採用意欲が高い（新聞社 [求人広告]）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年7-9月	10-12月	26年1-3月	4-6月	26年7月
倒産件数	113	120	117	111	41
(前年比)	▲3.4	0.0	▲7.1	▲5.9	5.1
負債総額	195	218	156	200	188
(前年比)	▲66.4	▲11.2	▲41.2	▲33.1	350.8



- 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]
<現状>
・特に冷蔵庫、洗濯機などの生活必需品やテレビが前年並みに戻っている。エアコンはやや冷夏という状況もあり今月前半は当県ではやや不調であるが、東北全体からすると季節的な要因を除けば消費税増税の影響はほぼ無くなりつつある（家電量販店）
<先行き>
・消費税増税の影響による景気の低迷から脱したものの、不動産売買件数としては例年に戻った程度であり、大きく変動する要因が見当たらない（司法書士）

